

## 市町村指定文化財取材票 &lt;表&gt;

取材日	2024 年	10 月	5 日	(記入者) 三谷尚彦	
取材参加者	石井	井本	小倉	神原	齋藤
	西田	三谷	本井		
取材対象先	奈良市：元興寺の木造地蔵菩薩立像				

所在地	奈良市中院町11				
所有者(取材 対応者)名	元興寺 公益財団法人元興寺文化財研究所 総括研究員 高橋平明様(個人情報守秘)			連絡先	研究所本部 (0742) 23-1357
				PCアドレス	
取材申込	申込先・行政名など：元興寺極楽坊				
市町村 指定文化財	彫刻	1 軀	木造地蔵菩薩立像 2017(平成29)年3月14日指定		
	建造物	棟	名称(指定年月日)		
文化財指定 理由	宝珠と錫杖を持つ通例の形式と異なり、平安前期に少数の類例のある古式な印相を示す珍しい像。頭部に作者名、台座に造立年・願主・願意が記されており、宿院仏師定正の銘を持つ数少ない一作で宿院仏師の古典学習を示す一事例として注目され、室町時代の南都の伝統を尊重する保守的な造像風土を考える上でも重要な像である。				
防火対策	設備・対策・点検・通知方法など			記入者の感想	
	本堂の南にある鉄筋の宝物収蔵庫「法輪館」に、寺所有の国宝、重要文化財等とともに収蔵されている。			防火、防災などの対策は十分にされている。	
獣害対策	設備・対策・点検・通知方法など			記入者の感想	
	同上			同上	
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	世界遺産にも登録されている寺院の所有であり、他の多くの宝物とともに近代的な収蔵庫で管理されているので、保存・継承上の心配はない。				
取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)					
元興寺は1300年以上続く間、激しい栄枯盛衰の歴史を潜り抜けてきた。今は最盛期の何十分の一かの境内に一部の建物が残るのみだが、世界文化遺産に登録され、今に至る素晴らしい宝物を収蔵庫「法輪館」で拝観することができている。失われたものもたくさんあっただろうが、例えば極楽堂の床下に穴を掘って隠して保存されてきた国宝五重小塔を見れば、多くの僧侶たちが苦難を乗り越え努力をして後世まで長く残してくれたことに感動させられる。寺は1961(昭和36)年には「元興寺文化財研究所」を設け、鉄筋の法輪館に10万点以上の寺の歴史的資料を保存しており、今や全国各地の文化財保存、修復、調査をも進めているとの事。今回取材の奈良市指定文化財である地蔵菩薩立像も寺創建後800年後の町人信仰の時代の制作品ではあるが、町衆の力もあって他と変わらぬ存在感のある姿をここで間近に拝観できている。長期にわたる保存活動を知るにつけ、文化財保護の大きな方向性を示されているように思う。維持管理の財政的なことなど大変なことも多かったと思うが、たくさんの人たちの情熱がこの素晴らしい保存活動を支えてきたのだと改めて感じた。					

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024 年	10 月	5 日	(記入者)	三谷尚彦
取材参加者	石井	井本	小倉	神原	齋藤
	西田	三谷	本井		
取材対象先	奈良市：元興寺の木造地蔵菩薩立像				

(写真撮影許可済・仏像写真は元興寺文化財研究所の掲載許可済)

文化財指定名 木造地蔵菩薩立像

文化財（正面写真）	文化財（拡大写真）
 <p>Photo by 元興寺</p>	 <p>宝珠と錫杖を持たず、左手第一・二指、右手第一・三指を捻じる印相を示す。印相地蔵とも言われる。</p> <p>Photo by 元興寺</p>

文化財収蔵庫「法輪館」写真	元興寺極楽坊（本堂）の写真
	

文化財の由緒	所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入
<p>本像は、頭部内と蓮華座上面の墨書銘から1543(天文15)年に宿院仏師源三郎定正が興福寺長蓮房琳勝法師の発願により制作したことがわかる。宿院仏師を明示し「定正」銘を有する貴重な像。地蔵菩薩としては異例の印相だが平安前期彫刻の特徴の一つとみられる。他に鎌倉南都仏師、飛鳥・白鳳の古像の特徴が宿院仏師特有の平明な造形の中にあり、定正はそれらを学んで造立したものと推測される。1726(享保11)年の文書「元興寺極楽坊縁起並びに什宝書上」に本像は「塩屋の地蔵」と記されているが、琳勝法師の入滅後本像を供養したのが元興寺極楽坊周辺の富裕な塩座商人であり、その由緒から呼称となったものと考えられる。</p>	<p>日本最初の寺である法興寺（飛鳥寺）が平城京に移され、寺名を元興寺に改められて長く仏教学の中心を担った。「続日本記」によれば奈良時代には東大寺に次いで2番目に多い二千町歩の墾田を認められており、平安時代半ばまでは広大な寺地と多くの伽藍を持つ大官寺だったが、その後急速に没落荒廃する。後には火災もあって現在のような極楽坊、五重塔・観音堂、小塔院の三か所に分断され、荒廃する境内には一般民家が建てられて現在のならまちに変遷していく。鎌倉期頃からは智光曼荼羅を祀る極楽坊が浄土信仰で近在の町衆の信仰の中心となった。本像も旧元興寺境内に住む大乘院「塩座」仲間が信仰したものと考えられている。</p>